

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京都府立向日が丘支援学校	階数	地上3F
建設地	京都府長岡京市井ノ内朝日寺11	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条地域、井ノ内地区	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年3月 予定	評価の実施日	2022年3月17日
敷地面積	24,046 m ²	作成者	榎内藤建築事務所
建築面積	7,920 m ²	確認日	
延床面積	13,032 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 89%
③上記②以外の 89%
④上記+ 89%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Qのスコア = 3.2**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.5

LR 環境負荷低減性 **LRのスコア = 3.7**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項

総合
建物は高い耐震性(重要度係数1.25)を確保し、受水槽や非常用自家発電機を設置するなど災害に強い建物としています。建物内外には、みんなの広場・体育館・グラウンド・プールなど地域住民が利用可能なスペースを設けており、開かれた施設としています。また、木材の多用や、建物下部に雨水流出抑制槽を設けるなど環境に配慮した計画としています。

その他
敷地の造成は行わず、既存樹木は、なるべく存置します。特に学校入口の既存のサクラは、そのまま残して、追加でサクラを植栽することで、並木道となり、良好な景観を形成しています。また建物利用者が使用可能な菜園を設置しています。

Q1 室内環境

建物の用途に合わせた細かいゾーニング計画を行い、天井の高い体育館には、床面放射による居住域空間を採用するなど温熱環境に配慮した計画としています。また、内装材は全てF★★★★建材を採用します。

Q2 サービス性能

建物の用途が特別支援学校であることから、バリアフリーに十分配慮した計画としています。外部の搬出が容易な東側にゴミ置場を設置しています。各教室に掃除用具入れ、各階の洗濯コナに清掃流しを設ける

Q3 室外環境(敷地内)

敷地の造成は行わず、既存樹木は、なるべく存置します。特に学校入口の既存のサクラは、そのまま残して、追加でサクラを植栽することで、並木道となり、良好な景観を形成しています。また建物利用者が使用可能な菜園を設置しています。

LR1 エネルギー

複層ガラスや断熱性の高い外壁、庇を設けるなど、熱負荷の軽減に配慮しています。また、太陽光発電装置を設置するなど、自然エネルギーの利用を行っています。

LR2 資源・マテリアル

エコマーク建材や節水型衛生器具を採用するなど環境に配慮した計画としています。躯体と仕上げ材は容易に分別が可能であり、フリーアクセスフロアなど再利用可能なユニット部材を採用しています。

LR3 敷地外環境

建物利用者のために十分な駐輪場・駐車場を確保する計画としています。また、建物地下は、雨水流出抑制槽を設置しています。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除いた年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される